

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：中海岸保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：岩澤 貞之	定員（利用人数）： 120名（利用人数：124名）	
所在地：〒253-0055 茅ヶ崎市中海岸1-2-42		
TEL：0467-59-1530	ホームページ： <a href="https://nishikubo-fukushikai.com/">https://nishikubo-fukushikai.com/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成24年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 経営法人：社会福祉法人 西久保福祉会      設置主体：茅ヶ崎市		
職員数	常勤職員：21名      非常勤職員：16名	
専門職員 （専門職の名称）      名	栄養士：2名	
	園長：1名      看護師：2名	
	主任：1名      調理員：2名	
	保育士：25名      調理・用務員：2名	
	保育補助：2名      事務員：1名	
施設・設備 の概要	（居室数）      （設備等）	
	保育室：5室      園庭：有	
	トイレ：4ヶ所	
	調理室：1室	
	事務室：1室	
	職員休憩室：1室	
	病後児室：1室	
一時保育室：1室		

③ 理念・基本方針

<p>&lt;理念&gt;</p> <p>個を大切にしながらも集団の生活の中で良い事や悪い事など様々な体験を通して「優しさとかくましさ」、「協調性と思いやり」、「生きる力と心豊かな人間性」を育めるよう援助します。そのためにも、常に夢や希望と意欲が輝ける保育環境を守り、創造するようにします。</p> <p>&lt;方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>子ども達の幸せを願い、情緒の安定する環境を創り、発達に合わせた活動から健全な心身の発達を図る</li><li>人との関わりを通して、思いやりや協調性、道徳性を育み、主体的に活動できる子の育成に務める</li></ul> <p>&lt;目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>健康で明るい子</li></ul>
---

・自分で考え自分で行動できる自主性のある子

- ・みんなと仲良く、楽しく遊べる子
- ・思いやりのある、心豊かな子

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

園は、最寄り駅から徒歩10分圏内の商業施設が多い地域にあります。図書館や美術館などの公共施設もあり、市街地であるものの園庭も備えています。海岸にも比較的近いので、自然を大切にしたい取り組みをしています。また、離れた場所ですが姉妹園があり、法人役員が所有している土地を借用し農作物に触れる活動も取り入れています。

・戸外活動では、園庭が人工芝のため、乳児から幼児まで思いきり体を動かし走り回り、芝の感触を味わったり、設置したテーブルや椅子でごっこ遊びを楽しんでいます。プール、水遊び、泥遊び等、夏ならではの遊びを楽しみます。姉妹園の自然豊かな場所で野菜の苗植えや収穫、芋掘り等、土に触れる貴重な体験をしており、収穫した野菜を洗ったり、給食の食材にしたりと食育に繋げています。海に近い立地から、気候の良い時には海岸へ出かけ海風を感じたり貝やシーグラスを見つけたりしています。四季の自然の変化に親しみながら新しい発見や感動しながら散歩を楽しんでいます。

・園での生活において個々のストレスを少しでも取り除き快活に明るく過ごせるよう、リズムに合わせての歌声の多い保育を大切にしています。

・色遊び等を通し、色のおもしろさを知らせたり自分のイメージを伸び伸びと表現できるように様々な素材や技法を用意して遊びの幅を広げています。

・運動会や発表会では、カー杯行うことや諦めないこと、力を合わせることを大切に、クラス一丸となって励んでいます。子ども個々の個性を受け止め、一人ひとりに合わせた保育を心がけています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年10月2日（契約日）～ 令和6年3月4日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	- 回（ - 年度）

#### ⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)給食室と連携した食育に取り組んでいます

給食室と連携して「食を通じて命の大切さを知り、感謝の気持ちを持つ」「食への期待を持って、楽しく食べる」などを年間目標とした「食育計画」を作成しています。子どもが給食室の前を通るときにその日に使う野菜を見せたり、園の花壇やプランターで夏野菜を育てて収穫し、自宅に持ち帰ったり給食の料理に入れていきます。また系列園の農園でサツマイモなどの植え付けや収穫をして、収穫後は洗うなど直接土や作物に触れる貴重な経験をしています。料理遊びとしてそら豆・トウモロコシの皮むきやおにぎり・クッキー作りなど子どもが食について関心を深めるための取組を行っています。

2)地域貢献に関わる事業・活動を展開し、地域住民と交流しています

地域の子育てを支援するため、育児相談、園庭開放、ふれあい保育体験、試食会など、地域における公益的な取組を実施し、地域住民との交流を図っています。園では把握した地域の福祉ニーズに基づき、1歳半まで子ども専用の「ぽっぽちゃん広場」や、お父さんのための園庭開放「ががお広場」（イクメン支援事業）を実施しています。また隣接するコミュニティーセンター主催のコミセン祭り、福祉祭りなどに参加し、高齢者福祉施設などと交流したり自治会主催の凧揚げ大会に地域育児センターとして参加するなど多数の地域交流事業に取り組み、地域貢献への一端を担っています。

3)子どもの自主性、主体性を育てる保育が期待されます

保育方針に『人との関わりを通し、思いやりや協調性、道徳性を育み、主体的に活動できる子の育成に努める』を掲げています。子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育の実現に向け、子どもがおもちゃを自由に使えるコーナーを作るなど自主的・自発的に遊べる環境作りや、表現活動に自由に取り組みめる廃材コーナーの設置など子どもが自ら活動できる環境設定の工夫が期待されます。

4)マニュアル類の整備が期待されます

保育園が作成すべき基本となるマニュアル類や手順書の不足が見られます。具体的には子どもの健康に関するマニュアル、虐待対応マニュアル、実習生受入れマニュアル、ボランティア受入れマニュアル、プライバシー保護マニュアル、標準的な実施方法に関するマニュアル・手順書などです。マニュアルを作成することで業務における行動や判断基準が明確化され、スムーズに仕事内容を習得するメリットがあります。職員が一定のサービスを提供できるようにそれぞれのマニュアルを整備し、職員に周知することが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

初めての受審です。受審した方より「良かった。」とのことを伺っておりましたが、評価との言葉が重く、二の足を踏んでいおりました。しかしながら、今回、受審が必要であったために行いましたが、結果的には評判通り受審して良かったとの思いです。

評価中の自己評価項目については、全職員、全職種をグループ分けして取りまとめましたが、全職員が関わることで園全体の共通理解を図るととても良い機会ともなっていると感じております。

今後は、足らなかった項目を重点課題として取り組み、引き続き安心・安全で地域や利用者に、より一層信頼される保育園となることを目指して参ります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり